

LifeR Stg:0

壺毒の病

目次

一	・ 一番目の金網を破る	1
OP		15
二	・ 飛ぶ少年の下に立つ	16
三	・ 模索する男に反感を憶える	37
四	・ 樹の下で邂逅する	63
五	・ 頭上の裂け目を指す	71
六	・ 壊死に向かう	81

登場人物

跡 ^{せき} 宮本 荊

2006.11.7-8

@キッド・アイラック・アート・ホール

作 宮本 荊

一・一番目の金網を破る

その牢獄の中は意外にも自由である。

つまり牢が牢である為の必須条件を其処はクリアしていない。牢獄と、いうエリアは語義からも自明なように被拘束者と他者を強制的に区別する為に在るもので、その意味からもこれは当然他者の側から発動されるものだが、其処ではそれからして違う。その牢獄は牢と呼ばれながらも実のところ被拘束者、つまり内在者側から生成されたものであり、且つその必要性を、ひいては存在自体を感じているのも内側のみである。原則に照らせば其処は牢では在り得ないのだが、ここで特殊でありまた其処を牢獄たらしめているのは、その当の内在者が自らを拘束する他者の存在を感じていて尚かつそれを感じているのが自分だけだということに気付いていない点にある。つまり内在者はちゃんと自由を奪われているのである。しかしこれは当然といえは当然の感覚で、一般にこつこつした状態は他の適した言い回しで、例えば「閉じこもっている」とかいった表現の類に括られるだろうが、当の本人からすれば自らの力でどうにもできないのだから拘束されているのと差異はない。

男

あんた?……あんた?……来るって言うてた?

男、顔を一層金網に押しつけこちらを見ている様子。よく見えないが、金網の裂けた隙間から時折手が覗く。

男

そつなの?よく見えないから、ほらこんなだろ?別に悪くないんだけど初めて見たらまあ驚くだろう。そついうことは分かっているんだけどあれだよ。人の家なんて色々ビックリするような色遣いとか「誰?」っていうような絵が飾ってあったり?あと匂いだな、一番違うのは。匂いってほら、視覚の後にヒュッと、気付いたら来るだろ。最初に入ったときと、あとそこを出るときと、違和感によってヒュッと気づく、な。あぁ、ここに來たって気になる……そつだな、あまり思い当たらないんだつたらあんた、多分いい暮らししてるんだよ。最近じゃどうよ。余所の家に行っても何にも香ってこない。そついうのが多くなつて、まあきたところであれだ。やれ槍の香りだ?あーはいはいこの匂いって、全部既製品の匂いだ。味気ないとか風情とかそついうこと言っつてんじゃないんだがどうしてそつまで小綺麗にするかね。

って俺はね、そう思うんだけどあんたなの？来るって言ってたのは。いやいや、あんただ。大体ここに来るなんて言ったのは後にも先にも誰もいないだし、(笑って)いや、いないんだよ、どうしたもんかってくらいに。であんたがそこに居るっていうことはあんたがそうだ。な？でだ。順番としてはどうしようか。どうするのが一番いいか。メモが何か取ってるの？メモ。録音はちよつとアレだから。で、つまるところアレだろう？結局去年の夏からえーつとここに入ったのが年明け頃だからその間の半年くらいか、その間にも何件か手がけたよ。その件メインに話せばいいの？何が言いたいかって、要するにあんたの目的なだけだぜ…

男、確かめる感じで金網を叩く。

男
いやいやいや、これが邪魔なんだよ。そりゃあ在って便利なこともないでもないがこれ、現にあんたと上手く話せない。だつて信じてもらえないかもしれないけど、こつとして来てもらつて俺としては結構嬉しいんだよ。誰か、来るんじゃないかと思つてたが殊の外誰も訪ねてこない。此処はアレだ、季節も下手すると分からなくなるから…二〇〇、五の、六年だよな？去年つて言つたけど違つたらさすがに自信なくなるわ。もうそんなぐらいだから。別に俺自身、アーティスト宜しく喋りたい伝えたいことがあるつてそういうワケじゃ全くないが、いやそこは誤解しないで欲しいんだが、伝えたいことなんてないが聞きたいつていう人間になら喋りたいことは山ほど在るわけだ。解んないかなこの感じ。俺自身先手先手に回つて喋つて喋つてさ

あどつだつていうキャラクターじゃないからあくまで聞いて欲しいわけな。ほら、久々に嬉しくなつちゃつたから言わなくてもいいことまで喋つちゃつたよ。俺がどうこうなんてのはこの際どうでもいいか。結論はだ。

男、巨大なワイヤーカッターを取り出している。それで二度金網を叩く。

男
あんたがこうしてここまで来てくれた今、こいつは邪魔だつてことだ。取つ払うぞ。

ワイヤーカッターで金網を切り始める。切りながら尚も話を続ける。

男
で、悪いがちよつとかかるんで、さっきの。順番が大事だつての。結局どうするよ。聞かれたことを答えていけばいいの？それとも喋つちまおうか。ただでさえ人間相手の会話なんて長いことなかったから、しかもこつつというのは本当に初めてなんだよ。あんたにこつ、リードしていつてもらつたらいいんだろつて…

男、金網を切る手を止めてしばしこちらをみる。

男
しかし見たところ悪いけどさ、あんたも大概だな。どうだ。いや待つてくれ。肝心なことを確かめてない。あんた、そもそもどつちの側から話を聞くことになる？もしかして俺は非難されたりするのか？それが結構大きいな。ああそうか。嬉しくなつてたからそういうのも見失つてたがあんたが普通の人間でわざわざこんなところまでやつて来たつてんならそつちの可能性の方が大きいわけか。奢りつてのかな。自

覚が足りなかったがそうだな、対立する二人の黒い医者って訳だ。(馬鹿笑い、笑った末に)「ごめんごめんごめんごめん、いっつも言われるの、自分の前提で会話進めちゃうって喋りまくってんのな。つまり、医療に忠実な医者と安楽死を積極的に認める医者とでバーサス？結局ピュアな医療行為の中で安楽死をどう認めるかポジショニングしていくか。そついつ話だったんだけど横道に逸れたものをわざわざ説明するのもなんだし。そもそも俺に言わせればどっちもどっちだしな。薬飲むにしても実際にメス入れるにしても？身体に異物を入れた時点で治すのも殺すのも大して違いはなかるうて。それにせつかく病気になってもまだ死ねないってのはきつい。病に伏したとなればこれは大義名分だ。それをなまじ治せるものだからおかしいことになるんだが、ま、その話は後でしようや。ほら。

金網を切り終え、男、それを跳ね飛ばす。

男 これであんたと喋れる。人と人ならこう目を合わせて喋らなきゃ駄目だな。クハツ！駄目だ。偉そうなこと言ったのに結局確認してないよ。あんたが俺の話聞きに来たのかどうか確かめてない。とんだ片思いだな。

男、ワイヤーカッターを持ったまま出てくる。姿が顕わになる。

男 そもそも誰？名前とか聞いてもいいのかな、この場合。

本作ではシーンごとに、(きつと)複数いるであろう客の内、特定の一人を限定し

てターゲットイングし、それを「来訪したライター」と位置づけるわけだが、状況に応じて「彼が動いた」という理由により随時ターゲットは変更してゆく。逆に言うとターゲットを変更することでライターを動的に存在させる。ここで最初のターゲットイングを、金網を出て直進したその先に位置するお客さんに行く。なお、以降同様の処理を、ターゲットイングでは字数が多いので、「ズーム、イン！」と記す。

男 ん？

男、ライターから名刺を受け取る。(無論、実際に出してもらい受け取るのではなくハンドマジックによって出す)しばし名刺を眺めて、

ふうん。なるほど。ん？ん？まいいや。諸々の感触を確認するために一個聞きたい。

名刺とワイヤーカッターを無造作に放って、改めてライターに向き直る。

男 あんた、死ぬ覚悟っていつのは「有る」と思つか？

手近にあった椅子を引き、ライターの目の前に構える。

男 ……伝わった？死ぬ、覚悟。まじめな話、俺の仕事の中でこれはコアだ。よくあれだ。例えば未遂に終わった時に「あいつは覚悟ができてなかったから」って言う。「本

当にその覚悟があるなら失敗はしない」って、「もつとちゃんと確実に死ねる方法を選ぶ」って、「睡眠薬なら睡眠薬で自分の体重と照らして一体何錠飲めば十分逝けるか、そういうことをちゃんと考える、死ぬ、覚悟があるなら」……言う。ただ何だ、死ぬ覚悟っていうのは、どういう気持ちを目指すの。言ってる本人は説明できるのか？元い、非難がちよつとそれたが本題はな、死ぬ覚悟ってのはこのお国特有のものってことだ。そもそも文脈上「死ぬ」に「覚悟」ってのはつかないんだよ、余所じゃ。それが平然と付く。そしてだからこそこの国にこの国の言葉に、『自決』と、いうものがある。俺のゴア、飯の種だ。積極的あるいは消極的に自らが死に至る行為を自らに課す、イコール自決だが、その中でこの国固有の自決というカテゴリーがあんたでも結構飲み込めるだろ？理解しがたいとかそういう次元の話じゃなく、自決と自決が臍氣にでも違うものだという感覚があるかどうかな。

ライターにぐつと歩み寄る。

男
例えば近代で自決として認識されてるといったら三島だ。(ライターの反応を伺い)なんだ、反応が薄いな。作家の、市ヶ谷で腹を捌いた…日本で唯一、世界的に認識されている作家といえるが全共闘全盛の折、市ヶ谷の駐屯地でクーデターの演説をして、挙げ句に文字通り『ハラキリ』ってやつをやって死んだ。例えばだ。あの事例は自決だったことはまあ疑う余地もなかるうが同時に自決だったと、言われても納得はする。実際そう言われてる。その肩の上に色々と思うところがあったのだから

う、云々、背景を推察できる。一方で、父親が蒸発した残された母親が幼い子供と一緒に手首を切って死んだ、というケース。心中という呼び名も在ろうがつまりは自殺だな。しかしこれは自決か？違う。何故違う何が違う、細かいことは解らなくて違うということとは、飲み込めるかな？

男、ライターの元を離れ、コーヒートの準備などする。

男
その感覚だ。余所の言葉にはさあ、この「自決」を意味する単語がない。巧いこと表現しているものさえ見つからない、似たものはそりゃあるよ。さっきの三島の例をとっても向川三郎の海外の新聞ではローマ字で『HARAKIRI』と書かれたぞうだ。『OTAKU』みたいなもんか。要は異文化なんださう。俺の師匠に当たると…今日田師匠なんて言わないか、まあ仕事の面で色々教えてくれた…先輩だ。先輩とか爺さんが居てね。今は知らないが俺が会った当時、ニューヨークでいわゆる幽霊物件を取り回して巧いこと稼いでた爺さんだ。

男、コーヒートを手に振り向く。そこにライターがいないのに気付ききかないという反応を示し(辺りを見回して、自分の後方に彼を見つける)スーム、イン！する。

男
ああ。幽霊物件ってな、まあ読んで字の如くコレ(一般的なお化けジェスチャー)だ。出ます「ってヤツだな。爺さんの役目はまずその家なりアパートなりで「出ます」

て噂があったと。そうするとどういうヤツが出るのか調べる。いや、確かに当人に聞けたら早いんだろうがそういう筋の人間じゃないから、土地の歴史？経歴？諸々を取材やらペーパーメディアから探る。想像するしかないんだが、一口に幽霊って言うてもあんたさ、こう、キャスパーみたいなのが出てきたら楽しくていいよ。ピートル・ジューズとか、古いか。なんかこう、ハリウッド的な幽霊物件ならいいが、しかしもし古い井戸なんてあってそこからこう這い出てきて呪い殺されたくはないだろう。物件だから「出る」という以前に何かしら事故があったという時点で価値は下がる。だが「何が出るか」が分かっていたら場合によってはお買い得ってことだ。信じてないな。結構あるんだぞ。ニューヨークっていうと食えないアーティストがゴロゴロいるもんで、兎に角安い「ト」安い「ト」って言うてると最後に必ず出される。「ちょっと訳ありますがね」なんてな。だが渋る。逆に飛びつくヤツもいる。「安いに幽霊がいるなんてなんて素敵！」っていうアホも結構いるそう、それならそれで結構。しかしそつでもなければ爺さんの出番だ。そこで爺さんと会ったんだ。爺さん、言うわけだ。どういいう白が在ってどういいうのが出るのか、あんたは男だから安心だ。なんだそれはと。いやな、ここに出るのは嫉妬に狂って拳げ句自殺してしまった女の霊だと。だからもし女だったらコイツはあんたを恨みの対象にして呪い殺すかもしれないが男だったらその心配はない。たまに彼女の愚痴を聞いてやればいいと。(笑い出す)法螺もここまでくると楽しいだろう。無茶苦茶なセールストークだがどうでも良くなる。だからそこ借りたよ。残念ながら二年間、一度も愚痴を聞くことはなかったがおかげさまで家賃がなんと80ドルだ。向かいの全く

同じ部屋が500以上するつてのに。

男、一瞬笑うも、おもむろに自分の頬を叩く。段々と所作が自己完結化し且つ間髪おかないものになってきている。

男
悪い、何故ニューヨークなのか全く説明してなかった。あー、だけど、んー、悪い、後で説明する。まあそういう爺さんがいて色々話を聞いて紆余曲折経て現在のこの仕事になってるっていうことなんだが、そもそもなんで爺さんの話が出たか。グツと戻って「自決」、っていう言葉。余所にはそんな単語がないっていう話な。まあ世話になったものだから今の仕事を始めようとした時、爺さんに挨拶に行つた。こ

この頃には男、既に軽く暴走し始めている。先ほどまで自分が何をどついつい順序で喋っているか、また相手の反応など細かく気にしていた怯えていたが、口が回り始めたことでそうしたものを意識しないようになってくる。通常よりも大きなマグでどんどんコーヒーを飲み下してゆく。

男
んん、はぁー、(にやつと笑い、マグを指して)実を言うとこれも久しぶり。だってほら、(金網の)外にあったから。ついでといつちやなんだけどあどね、あんた悪いんだけど、タバコある？

という振りの為、この段では極力スモーカーっぽい客にズーム、イン！しておく

こと。外れたら仕方ない。

男 持ってない？まあこれから色々と喋るんだからギャラの？前払いだよ。

運良く持っていて尚かつ進呈してくれたら頂く。さすがに突然たかることになるので、お礼に引き出しから葉巻を一本出して差し上げる。もし持っていなかった場合は、仕方がないので「シガーの方が良かったんだが」などと言いつつ引き出しから葉巻を出してそれを頂く。といった塩梅。

男 ちょっとだけ。ちょっとだけな。ああもし気になるんだつたらほら、ファブリーズ。

ライターにファブリーズを渡しつつ、話を続ける。なお、いずれにせよそんなに吸わず、早々に揉み消す。

男 (少し落ち着きつつ)で爺さんが。その爺さんがどう説明しても不思議な顔してるんだ。最初は？確かに内容が特殊だから無理もないと思ってたんだがどうもそれだけじゃない。話してるウチにどうももつと根っここの所が分からないらしいと気付いた。同時に自分の中で何かが光って見えた。グツと駆けめくれた。俺が、これからやるうとしてる仕事…あんたも知ってるの通り？例の爺さんに負けず劣らずえげつないのは確かだ、だが爺さんとは決定的に違う、何が違う？どうすればいい？何をすればいい？…：…うつつすらと見えてきた。この仕事は結局なんなのか。何をしたらいいのか。正直なところ、それまでは確証がなかった。果たしてそれが仕事となりうる

のか。それを成し、報酬を頂戴するというビジネスモデルが成立するものなのか。しかし爺さんと、その「自決」のニュアンスを理解できなかった爺さんとの会話の中でようやく確信した。自殺したいと思ってる人間に自殺ではなく自決を促しそうしてその死は自殺ではない、自殺ではなく紛れもなく自決だったと周りから正当に認識されるようコーディネートする、これは…：…成立する。

男、コーヒーの残りを飲み干し、空になったマグをしばし見つめる。それから視線をライターに向ける。この際に、先ほどとほぼ同じポジションの別客にスーム、イン！

男 …：…基本は幽霊と一緒に。所詮同じ自殺者物件、一方は苦悩の末の自殺。苦しかったろう。独りきりで辛かったろう。浮かばれない。恨み辛みも多々あるだろう。だがもう一方は、それはつまり蹶起だ。後腐れ、無い。だから、安心。だが爺さんと確実に違うのは、後から調べて情報を提供するのでなく作成する。つまり生前から関わる。爺さんは斡旋した、つまり部屋を借りる人間からのみ報酬を取る。俺は、両方から取る。七月十日、江田昌弘^{えだまさひろ}。十月一日、村上祐介^{むらまゆけい}。同二十日、大村浩一。この三件は妙に印象深くまた俺がここに閉じこめられている原因でもある。江田は…：…

と、逡巡してライターをしばし眺めて(量って)

男 いや、村上祐介。十月一日。こいつが多分一番分かり易い例だろう。分かり易い、つ

まり、話として飲み込みやすい。三件の？時期的に真ん中に当たるわけだがどうやらもう少し飲み込めてないあんだと、あと俺のためにまずは、それからいつてみようか。あ、

男、気付いて

男 またやらかした。名乗ってもいなかったな。

ライターに手を差し出し、

男 跡だ。跡。よろしく。

握手、するまで待つ。

跡 勿論本名じゃないがね。

ちなみだが、跡の名前は芝居中は口頭でしか出てこないのので、「これが」跡「と
いう字であることは当パンでのみ判る、ってことになる。」

跡 東、何とか、第何とか高校…ほっとんど憶えてないな。そういう話はあんまりしてないんだよ。要するに高校一年だった、村上裕介。当時、十六歳。あなたがもし俺を非難する立場だとしたら少なからず思ってるだろう。他の二人はともかくどうして、

まだ子供なのに、だったのに、手を下した。

奥の棚から写真らしき物(引きちぎれている)を取り出す。

跡 だからまずあいつの話をしようや。

暗転。

形成された脳殻に体殻が重なり、あたかも木偶人形マリオネットのように吊り上げられる。脳は身体の中に在るのではない。脳と謂う牢獄は身体を拘束している。シノプスがギシギシと間接を締め上げ、血は流れるが元々紅い。其処に光が射し込むとすれば、それは頭蓋に穿たれた穴からしか有り得ない。そして、それが最終的な願望なのである。身体を吊るワイヤーには光っている物とそうでない物がある。光っている物は、意識している記憶。そうでない物はそうでない物。当然ながら、そうでない物が圧倒的に多い。

身体が苦悶を告げると同時に、身体を吊っていた神経が一本一本消滅してゆく。そして、最後には何もなくなる。見た目には、何もなくなる。

そんな、男と脳髓の関係が垣間見えて消える。

ていつのをやりたいな。できるかな。

二・飛ぶ少年の下に立つ

少年、村上祐介は極めて大雑把に客観的に見れば「虐めを苦に自殺した少年」である。確かに虐めは存在し、最終的に少年は自命を断つたのだが実のところ少年にとって虐めそのものは厭ではあったが「苦」というほどではなかった。自殺のきっかけではあつたらうが少なくとも鉄槌ではなかった。彼が自殺行為にやり甲斐を見出し自殺について考えることで気を紛らしていたというのもあつたらうし、ある程度麻痺もしていたのだらう。結局少年が「最終的に」といふ言い方もおかしくなるが「何をしてほしかったか、そして客観的には何をすべきだったか」というのは相反するものだったということになり、どちらが少年の為だったのかということをお近親者関係者が後に自問するのである。

跡 骨子が解りやすいからこそその中の本質を覗きやすい。この件で言いたいのとは勿論俺の仕事内容のこともあるけどこいつの……あいつの意志と世界の意志がどうだったか。伝わりやすくする為にいつそ俺達の信条を無視するなら、あいつは今あの世で幸せかどうか、ってことだ。

明転。

跡 ケースバイケースというのはどの仕事でもどんな活動でも絶対にある、だって人のや

ることだから。完全なルーチンワークは存在しない。この件で、あいつは基本的に冷静だった。あいつ、村上祐介な。こっちも別に仕事だから、基本的に冷静だった。だからあいつのことは結構好きだったよ。村上祐介、初めて会ったときは十六歳。そのまま十六で死んだ。高校一年。ご想像の通り、って勿論知ってるか。実際見ちゃいないんだけどまあ非道い虐めだったって。最近の虐めって陰湿だってさ、ほらよく言われてるけど聞いてみると所詮昔も今もにたようなもんだな。どの時代もどの世代もどの国でも誰かが誰かを虐めてる。大概変わらない。考える。もしあいつが虐め、られる側じゃなかったらあいつは今生きてたか。当然だと思つか？

ジツとライターを見据え、続く答えを発しようとしてやめる。本題に入る。

直わかる。あんたも考えるようになる。

突然芝居がかる。

僕がどうやったら死ぬるのか考えてくれる人なんだろうか。つまり……任せていいんでしょうか。

跡、始めるよ、の意でニツと笑つ。すなわち、明言することなく少年になる。

一度は誰にも知られずコソソリと図った。次は親友だった男に伝えてからやった。彼はその後親友とは思えなくなった。次は教師の目の前だと思つたが、どこからか三

度目であることが露呈して真つ当に取り合つてはくれなかったために止めた。次はどうしようと考えていたら夏休みに入って仕舞い愈くて延期した。新学期になった。暴力の割合が増えた。隠そうにも表の傷は隠せずにととうとう親にもバレた。その頃には、内の疵が露呈しただけだと、寧ろ動じなくなつた。

跡、黙る。黙って、スツとライターの前に立ち、黙る。

そこで黙つた。言葉をひねってるのか、ストップパーがはずれきつてないのか微妙だったそんな静かなやつだった。(時計をみて)三〇分ほど、黙つた。俺も黙つた。こんな風に、向かい合つた。あんたは、もとい、あいつは、下を向いてた。

そのまま黙る。30秒は黙る。

あんた、試しに30秒経つたが初めてあうガキと向き合つて三〇分ただ黙っていられるか？この仕事はそれが要だ。俺のところに来たからって一から十まで決意が固まつてる訳じゃない。決意は固まつてるけど言葉は固まつてないかもしれない。だから、待つ。待たなければ、相手の心が行き場を失つて迷子になる。苦痛じゃないんだ。次の言葉を心待ちにしてた。

跡、座る。少年になる。

跡 そろそろかかつて…再び黙つた。だけど今回は黙つたんじゃなく測つてる。俺が意図

を紹介するかどうか。こいつはな、自分に気持ちのいい返答がほしいところだ。だからそれをもう一つ上回る…(跡として)その決意が何か知らないが、これまでのものと違っていてどうしてわかる？ いままで失敗してきたのは何故だ？(語り)これは一つにクライアントに対するパワーバランスを操作する目的がある。そしてもう一つ、相談相手がほしいだけのやつは端からいらぬ。ここに来る以上ある程度の目的があつてほしい。そこをまずふるいにかける。そしてこのとき、あいつはそのまま落ちるかと思つてた。それで絶望して死ぬならそれも仕方ない、というより結果は同じ。心を鬼にするとかいう話じゃないしな。ただどあいつはそれでもまだ落ち着いてた。完全に、静かだった。

跡、というより少年、本を取り出す。自殺マニュアル的なもの。

跡　そして聞いてきた。

跡、本を放る。それを機に少年になる。

僕がどうやってたら死ぬのか考えてくれる人なんですか。つまり…：…任せていいんでしょうか。そろそろ事を起こす頃合いです。しかし世にマニュアル本は多く在るけど、どれもこれも陳腐だ。一度切りの人生なのだから全うする方法は厳選したものでありたい。最前の自殺方法はないものか…：…お金にならないのは分かつてます、あなたにとつて。だから情に訴えます。情か、遣り甲斐か、とにかくそういう

ものに聞きます。やってもらえますか。あなたがどういう人なのか僕もちょっと測りかねてる。だから僕のやりたいことを今喋ってます。やりたいこと…：…あんまそういう言い方しなかな。さっき言われたとおり確かに失敗してます。だからここに來たつて風には言いたくないんだけどそうだな、失敗してなきゃここには來てないんだから一緒か。あの、なんかこう、そういう形で、最後の藁みたいな感じで頼つてるワケじゃないんだつてのはわかつていてください。

少年、実のところ、いや当然ながら、やはり高揚している。

跡　わかつたから…：…止めた。(少年に)だからまず座れ。…：…死ぬのは確定だな？

以降、擬似的に便宜的に会話となつている部分があるが、勿論跡一人によるもので全ては、表現である。

ええ。

全うする方法を探してるんだな？

ええ。

死んだほうがましか？

同じです。

分かつた。君ね、そういうのは自殺って言わない。そういうのは、自決って言う。聞いたことあるか？…：…頷いた。知っちゃいるだろう。言葉は知ってるっていうイエス

だ。(少年に)自殺と自決じゃ全く違う。産んだ子供を育てるか殺すか位に違う。さて、報酬はアテにできないが一応書いとけ。

跡、棚から紙を一枚取り出して差し出す。かと思いきやその紙について説明。

跡

そしてこれ。一つの手段としてこの紙を見せる。小難しいことが色々書いてあるんだけど見えないか。要約すると、「全部任せろ」って書いてある。あいつは…見た瞬間やつと肩が落ちた。想いがどうあれ此処に来る人間は此処が最後の藁だ。当然だ。(少年に)時間が惜しい。やることは決まったが色々プランがある。今日から毎日此処に来る、いいか？お前のお前のためのプランを作るんだから話し合いが要る、な？来られるか？だったら今日、この帰りに一つマグを買ってこい、コーヒの。飲むだろ？ここには俺の分しかないのでお前自分の分は用意しろ。安もん買ってくるなよ。それが授業料だ。なんて言ったが要するに負担を軽くしてやるうってことだ。弁護士だってなんだって会うだけで金が要るしウチも基本はそつだ。がめついつてのは生者の感覚だ。大体死ぬ間際の人間がそんな金を惜しんだりはいしない。あいつも金のことを言ってたんだからそれは分かってたんだろ。それに根つこの問題としてあいつをやったって物件は多分とれない。そもそも趣旨から外れてるわけだ。料理人がさ、料理を作る喜びと食べてもらう喜びとあるとしたら今回の件は作るどころまでしかないわけだ。まあ、それでも受けた。いいヤツだろ？(手元の空になったマグをくるくる回して)余計な世話といわれればそりゃそつだ。あいつも

ガキだからってそういうのに気づかないほどじゃなかるうが、少なくともあいつは買ってきたよ。あ、マグな。ん？ああ、そういう話か。牙羽獠が五百円で依頼を受けた話知ってるか？…聞いた俺が悪かった。漫画のな。必殺仕事人みたいな。何かの時に小学生の女の子から小遣いの五百円で依頼を受けるのな。なんの仕事でも情で依頼を受けることってある。それに正味な話、例の爺さんと違って俺にとつて物件云々は副産物みたいなモンだ。また特にこのときはそういう時だったからこいつはタイミングがよかったよ。というか、さっきから失礼だったな。あいつやらこいつやら、これじゃただの思い出話だな。村上祐介は…

ファイルを取り出してちょっと調べろ。

跡

十七年の九月十日から、そうしてここに来るようになった。生年月日、まあ知ってるか、生年月日(ファイルを指ではじいて、一九八九年十一月二十三日、つまり差し引きの享年十六歳。A型、両親に姉が一人、父方母方の祖父母ともに東北にて健在、当時はな。父方の祖母さんが今はちょっとシヨックでおかしくなってるらしい。まあ歳もあつたろうし。当時村上祐介に対する虐めは、(目を上げて)まあ、どうなんだろうな。どのくらい非道いとかこのくらいなら許せるとか人によるだろうから何だけど部外者十人がみたら十人ともこれは虐めだと、言う程度にはあつた。実際(ファイルより)そうそう、ここに来たとき指の骨折ってた。高校で指の骨折るなんざ、よほど部活がんばってるか折られたかどっちかかね…さすがに言い過ぎか。村上祐

介は勿論折られてた。部活はやってない、やってなかった。他に知りたことあるか？

ライターにリアル尋ねる。

跡 　　つたくあんたさ、さつきから淡泊だな。

続けて何かを、おそらく説教めいたことを言おうとしてやめる。

跡

「頭の頂点から額に、ヌルツと垂れてきた。それが何か見当がつかないという以上に思考は停止していたが、脛の上までそれが垂れてきてようやく気になって触ってみた。本物を見たこともなければ多分質感としては大きく違つのだろつが、掌に付着したそのヌルツとしたものは、原油に似ていた……(ファイルに目を落し)海岸で海鳥が絡め取られて無惨に黒々としていた、あの原油である。ただ触ってみると油というよりももう少しサラサラしていた。ようやく考え始める。これは何か。そして次、なんで。手をもう少し上にやって答えは分かった。僕の頭の頂点が十センチほど裂けていた。原油はそこから零れだしていた。」

この段階で跡、当時の回想に入っている。すなわち、当時のファイルをライターに読み聞かせている跡から、跡の前でファイルを読んでいる村上に変わっている。

村上

(見上げて)人前で読むのは初めてですよ。そういう風に想像してなかった。でもも

しかしてホラ、結局自殺が上手くいってたら、それでニューズなんかに出てたら、これって人目に触れることになるかもしれない。こういので生きてた頃の気持ち推測するんですよ。ま、結局いいように酌み取られるだけだろつけど……続き？そこそ長いですよ。今読んでみて思った、これ退屈だと思えます、僕以外の人には。頭の上が裂けることに気付いて、そこからたまにその黒いのが流れてくる。で、コイツはなんで裂けるのか、その黒いのは何か、ひとしきり考えて、そうやって考えてる内に裂け目が広がってもう顔が剥がれ落ちてることにやっと思つて、実はそうじゃなく、剥がれてるんじゃないって顔の全部が捲れていってるんだと気付く。だつて剥がれていってる元の芯が見えたらないから。そのままズルズルりと肩から腕から身体が裏返っていく。裏返っていく。(紙面の最後の方を探して)「とうとう足の小指までが、凹んでいたゴムがボコリと元に戻るようになり黒い側にボコリと出た。全て裏返ったのを見届けて、僕は未だに何か分からない原油のようなものをヒタヒタ垂らしながら鏡の前を離れた。両親が家の中でここにしか鏡を置いていない理由が一瞬分かった気がしたけれど、自分の今の状態に比べればどうでもいいことだと思つた瞬間に分かった気がしたことも忘れてしまった」……(首を振って)いえ、ここまで書いたんですけどその先どうなるのか分からなくて書けなくなりまして。終わりじゃないと思うんですけど。聞きたいのはそういうんじゃないんです。これはとつとくべきでしょうか。跡さんのプランの中でこれは有ってもいいものでしょうか。下手すると遺書ともとられかねないじゃないですか、全然そんなことないんですけど。たとえばこの中に僕がどうして死にたいかみたいなのが知らない

うちに盛り込まれてるとしても、そういうのさじ加減はあなたに任せるつもりです。跡さんは僕の最後を創ってくれるんだと思ってますし。だから余計なヴィジョンを残さない方がいいでしょう。だから持つてきました。日記とかBlogとかはやってないからもうこれくらいです。この人は最初にあったときに僕が死ぬことについては驚くほど、こう、スルーした。実際この人が重要としたのは種類がどうということだ。つまり

跡(声) 産んだ子供を育てるか殺すかくらいに違つ。

村上 不思議なことを言う。その言ってること以上の意味がある気がする。ちょっと分

らないけど。とにかく少なくとも僕にとつて心地よい相手だった。(相手に)本当ですよ。死ぬなって言う人がいる。色々と難癖つけて。逆に死ねって言うヤツもいます。昔はね、最初に失敗したその前、死ねっていわれて「ああ死ぬよ」って実際に死んでやったらコイツどうやって償うつもりだ、そんなこと考えてスッキリ、するみたいな、こと考えてたことがありました。でもあんまり意味ない。それに一回しか使えない、その手。ようするに妄想ですよ。考えたら恥ずかしいや。間違つてたらずみません、それが育てるか殺すかっていうところの、殺す、ほうになるんですか。

跡

ときたもんだ。ぶっちゃけそこまで意味深な言葉じゃなかったんだが、話してるときはなるほどそうかもな、とも思った。でだ。そりゃあつまるころ村上祐介が何で死にたいかそういうことに大して意味はないよ。全くナシじゃない、だってコーデ

イネットしていく死に様が生前の本人とあまりに違つてもそりゃおかしな話だろう。だから一通りの検診はしてみた。いつもやるわけじゃない。死にたいっていう人間は結構その辺りペラペラと喋ってくれる人間が多いもんだからやらなくてもいい場合も多いんだけど、コイツ、失礼、村上祐介はそんな具合で今どうよって、核心の所を喋ってくれないもんだから。

跡、机を引つ張り出してくる。そして村上祐介を座らせ対面する。跡は喋る。

跡

そついう相対的な孤独感みたいなものは捨ててる。自分見つめたつてろくなことにならない、現にそつだ。ん？お前を量れ。俺や他の誰かがお前を推し量るようにお前を量る……そつするどつだ。お前の中の、お前の今暮らしてる時間の中の大体何パーセントが孤独に見える？数学はだめか？じゃあ勉強だと思え。まず昨日は何時に起きて何時間起きていた。その中でいつ孤独だった？その総和は何分か何時間か？次、お前の昨日はお前のこの一週間の中で何割くらい孤独だった？昨日を百とするなら他の日はいくらだ。記憶にないものは勘定に入れるな。入れる必要がない。で、どつだ……なんだそれは、孤独だった気がするって気がしたのは誰だ、自分だろう。そんなもの端で見てるお前にわかるのか？お前、人様が孤独な気がしてるのを見て解るのか？いい加減なことを言つな。さ、いくらだ。

跡、村上祐介が書いた紙片を取り上げて眺める。眺めながら。

跡

いいか？お前が自分の内側から来る感覚を信じられないんだ。たら外側から補強してやれと言ってるんだ。数字によって。外殻補強だ。で……（紙片を見て）虐めっていう、ファクターがあるわな？お前のこの一ヶ月生きた時間の中で紙片を逆に村上に突きつけて一割程か。じゃあ次。この挙げていった事柄に大して幸福だった度合いを当ててみる。そつ、一般に、あくまで一般に「これは耐えられない」という苦痛をマイナス百としてこれ以上ないという幸福を百とする、でそれぞれの出来事はいくらだ。

村上祐介に計算させながら後ろの方から

跡

実際、お前自身のことだから百パー客視はできない、な？だから客観的に見るように努力しろ。今まで見聞きして培って飲み込んできた一般の感覚で眺めろ、そのズレは今は気にしなくていい。そうしてお前を消していつとお前の動きと環境だけを見る。そこに浮いて出てくる生活、人としての日々の生活を見て…

書き終わったのを見定めて

跡

（紙片を眺め）大体中の下ってところだ……仮に、あくまで仮に今からいうことを全て鵜呑みにしてみる。（紙片を指し）この程度の人生は、普通だ。それほど悲観するもんじゃない、他人は思ってるよりもっと悲惨だ。そして普通人はそれを標準と思ってる。まず飲み込め。で、どうだ。お前はどっして死ぬ方を選ぶ？

跡

跡、村上祐介を見、そこに意外なものを見つけ言葉切る。そしてライターへ。

……村上祐介はやはり答えなかった。答えなかったが、そのなんとも脱力な習慣的な絶望感というか冷めた顔を見て、解った。『コイツ』はつまりやる気をなくしてたんだ。何故。生きることに絶望したから、違う、それじゃまるで意味が違う。自分が生き物であることに気付いて絶望した、この先、数十年、色々なことが幸せなことがそうでないことが色々なことが起こって、そして、死んで無になっただけで、小さな揺らぎのような人生が始まって消えて百年も経てば存在の記憶も、良くて歴史に残ったとしても数千年？その程度で全く消滅してしまう。その途方も無さに、絶望したんだと、解った。普通人間そんなものに絶望しない。まずそんな無駄な絶望をしてる暇もない。あんた、虐めが原因で死んだと思ってるだろ？突き詰めればそれは違う。でももっと突き詰めれば、やっぱりそれも正しい。あんたは虐め、られたことがあるか？いつだっていい。ガキの頃も今も。

先ほどからなにげにズームイン！していたライターに尋ねる。過去に現在に虐めを受けた、あるいは施した経験があるかどうか。その返答の如何で接続は微妙に替わり

跡

ないか？じゃあわからないか……いや特権みたいに言つつもりはないんだ、想像力があるなら考えてみる。（お、）そつか……そつするとかえって想像つかないかもしれない

が……」（耳元で）中学高校つとときに虐められてると、クラスに職員室に自分の家に、味方は居ない。孤立無援な。長く続く。なだらかな坂みたいに来る日も来る日も虐められる虐められる虐められるポツーン、つてなる。そうすると自分のことを特別に思うようになる。自分はクラスの皆から虐められてるっていう、そういうユニークなラベルが付く。妄想が膨らむ。極端な例でどうだ？女の子がそういう立場にあつたら。いつの日か誰か自分を助けてくれる人が現れるに違いないと思う。いつの日か熱い、理解のある先生が現れて自分を助けてくれる、そうして自分は生まれ変わり恩返しのために将来教師を目指すんだ。妄想だ。キラキラする。悲劇のヒロインか？そういうラベリングに自分で落ち着く。（離れて）だけでもう少し頭がよくて適応が早いと、そうやって壊れてしまう前に気づく。あいつも気づいた。気づくのが早過ぎた。今でこそ虐められてるっていう自分を持っていられるが将来、虐められることもなくなつたら、この世界に六十億か？ゴミみたいに大量に人間が居る中の一人になつちまう。自分は真実、生き恥晒したゴミになる。

I.F.O.

葉巻。

跡 そうなる前に自分の命を使つてできることをやっておきたい。そう思った。そんな世界の片隅で（火が消える）消滅した火になんて何の力もない、そんなことはあいつだ

つて解つてたよ。でも、もし将来、いや今現在でも、誰かがあいつのことを大事に思つて死んでほしくないと思つてる人間がたとえいたんだとしても、あいつはそんなだから、オンリーワンである輝いてる内に終わらせなかったんだよ。その気持ち、あいつのそういう頭の中を想像が付かないかもしれないがちょっとだけ、頑張つて想像してみてもらえないだろうか。

村上という少年の絶望感が広がる。マクロの中のミクロは相似形のままただ広がるように思えるが、質量が違つていくことは根本がもう違つていくことである。

跡 夏休み、あつたよな。会社でもらえる三日四日の手慰みじゃない。小学校の夏休み。よく、思い出せ。昔へ巻き戻せ。あなたにもそんなときがなかったか？

夏休みのジオラマ風景。

跡 小学校三年だったかな、旅行へ行つたり海へ行つたり色々楽しいことがたくさんあった恵まれた、夏休みだった。残すところ一週間となった。いつもの学習機に向かつて楽しかったことを色々と思い出しているうちに突然アレって思った。この小学校三年の夏休みというのは終わってしまったんだ……もう二度とないんだ……この先来年になつても大人になつても死んでも大陸が移動してもこの地球が寿命を迎えて爆発消滅しても宇宙がまた違つ宇宙になつても、この夏休みはもう永久に失われたんだと。すげえ泣きそうになつた、いや泣いてた。

ジオラマが妨害によって裂ける。

……今回は、オーソドックスに身投げが良からうと思った。

明転。

今回、さっきも言ったように物件云々は関係ないので別に村上祐介の自宅敷地内で決行してもかまわないのは確かだった。自宅というか賃貸な？社宅だ。まあスポットについては自宅以外でむしろ演出上の効果を重視して選ぶことにする。痛いのは我慢できるか？

Yes

生前に痛いのは？死ぬ際に痛みを伴つのでなく必要として体を傷つけるのは？

どういことですか？

指を、落とす。

……？

お前の指を、落とす。

……？

主張性を高めるために決意の真摯性を確かめるために、早い話が本気を見せるために

跡、村上祐介、を通り越してライターの「指」を指す。

跡

中指を今切り取る。右でも左でもかまわない。早いほうがいいだろう。できるだけ最期との距離を置く。つまり衝動でなく予定として指を落とし且つ飛ぶ、という姿勢を見せる。俺個人としては、衝動による自決はあると思う。構想十年だろうが一瞬のひらめきだろうが世に出る際に変わりはしない。だが世間様はちよつと違う印象を受ける。(ライターに)たとえはあんたはどう考える？虐めを苦に少年が一人身を投げた、あんたの中に同情とある種の空しさが生まれながらどこかで、どうしてもっと頑張らなかつた、戦わなかつた、我慢しなかつた、どうしてもう少しだけ耐えてみなかつた？その先にあるだろう未来のために、つまり少年自体を責める。それがどうだ、彼の少年が生前にその決意の元に自分の指を切り落としていた。(指を出して)身体の中でただこれだけの体積だが無くなれば後の人生、かなり困る。だから主張になる。指はネットを介して全国に広まる。そして「ああ、本当に指を自分で切ったんだ」あんたは思う。あんたの中にこの問題を受け止めなければいけないという義務感が生まれる。

その無くなるはずの中指を突き出して

跡

言ってみれば脅しなんだよ。そこまでやっちゃったかだか十数年しか生きてない少年がいる。自決が自殺でなく自決であるためにその死は多少のセンセーションでもって生者の「生きてることが当然」という常識を脅かさないといけない。だが問題が生じた。村上祐介はさすがに、自分の指を落とすことを躊躇った。あんな、あ

いつにあったのは『自決』する覚悟であって、『生きてる間に指を落とす』類の覚悟じゃない。完全に別物だ。覚悟があるうがなかるうが、痛いのは、厭なんだよ。「任せる」と言った手前、アイツはハッキリ厭だとは言わなかったがさすがに情が立つて無理強いはできなかった。だからプランを変えた。

後に解る、というか考えれば気付くことで、このプラン変更によって生前でなく死後に切ったために跡の行いが決定的に露呈する訳で、無論この変更の段階で跡もそれを承知していたのだが、それは後の話。

場面はジャスト飛び降りの時となる。この飛び降りの場面はは後にも登場するが、ここは跡の側からの視点。後方にビル、跡、そして跡の前には透過写幕。

跡、首にヘッドフォンを、手には冒頭でも登場した巨大なワイヤーカッターを。
跡、頭上を仰ぎ村上祐介を確認する。

跡

(仰ぎ見たまま)あんにに……こんなこと言っただって何にもならんだろうが、この瞬間だけは怖え。恐怖なんだよ。清水の舞台から飛び降りるって言うたる。つまり完全なワンチャンス。そしてアイツはアイツに限らずクライアントはその唯一無二を俺に託してる。ミスったらどうするよ。予定していた効果が得られなかったらどうするよ。だからね、清水的な覚悟ってのを俺は毎回やってるつもりだ。ここ、風も

ない、大体ここにアイツは落ちてくるだろう。そこから一步後ろに下がる。ここで見届ける。

跡、首に書けていたヘッドフォンを耳に当てる。

頭上で少年が覚悟の先のラインを跨ぐ。聞こえてしまつ鉄柵の軋みはヘッドフォンで無理矢理かき消され、サイレンサー付きの銃のように少年は落ちてくる。

落ちてくる。

落ちてくる。

頭上に迫る。

迫った。

首を捻る。

少年も首を捻る。

眼があつたかどうかは定かではなく

少年は僅か身体を翻し

地面に達する。

血が舞う。

浴びる。

跡、ポリウムを上げ、

指を切る作業に入る

スクリーン この度僕が自分の命を絶つことについて

色々なことが言われるだろうと思います。

だがそれは問題ではない。

本題は

僕が今回このような形で死を選んだことが知られて

僕と同じような状況にある全国の子供達、

子供達よ、これから一ヶ月以内に僕の後についてきてください。

大人達よ、身近に子供のいる全ての大人よ、

いったい誰が死のうとしているのか、

一ヶ月で見極めて止めなさい。

それを試してほしい。

この勝負は、この文章が世の中に伝わらなかつた時のみ、

僕の負けとします。

手紙の後ろで跡、手早く指を切り取り納める。そしてスクリーン越しに

跡

事前に幾つかのテーマとポイントを示して宿題を出したらアイツがこれを書いてきた。アイツが、本当にそんなことを望んでたのか解らないが少なくとも死と引き替えに知りたいことではなかつたろう。俺と同じであの世なんて信じてなかつたから。じゃあどうして死んだんだとここであんたが憤りでも感じているなら、俺はちよっと説明できる自信がない。兎に角この飛び降りとメッセージがどんな影響を出したか、それはあんたもよく知つての通りだ。

暗転。ブリッジ。

三・模索する男に反感を憶える

電話が光る。小さくもけばけばしい明かりに照らされて男の後ろ姿。秘密主義は往々にして公然。

電話(音声) 私、江田という者ですがそちら、跡、さん?……あなたの手を借りるまでもないとも思うんだけどどうしても不安が残る。分からないことが幾つかある。あなたは専門家なんでしょう?相談に乗って欲しい。

切れる。消える。

二件目。江田昌弘。

江田という男は形式上のテロリストである。まず闘争が在り、闘争を成すためにイデオロギーを、敵を、不満と満足と欲求を逆算して生み出す。要するにテロリズムという浪漫を抱きたかっただけ。平和と暇として、妄想の中で「自分の命を劇的に奪ってくれる強烈なドラマ」にあこがれているだけ。豊かな社会に許された漫然とした自由に耐えきれず、束縛してくれる大きな運命に焦がれているだけ、である。だが、そうした陳腐さが明らかだったにもかかわらず自身の『自決コー

ディネート』という仕事に対して彼が最適なクライアントであった為に、跡はこの話を躊躇う。ただおもてだつてその躊躇を見せないのは、そうした欺瞞を自分の中で明確化したことで逆にこの仕事に対する自らの動揺を封殺するという、分かり易い防衛本能(本人は合理化と思っているだろう)が単なる置換ではある(る)による。

跡 大変だったのは最初だけ。後は、もうひたすら無理があつた。あのな、元々無理がある仕事なんだからっていうのはちょっと想像力が足りない。人間どんな状況でも、ベースラインが不幸でも幸福でも、普通に幸せだつたり充実していたり苦しかったり歯がゆかつたり、で、無理があつたり?する瞬間があるもんだから。普通の『幸い』と不幸中の『幸い』はその質としてどのくらい違うか。まあそついつアレを何で話してるかっていうと

明転。

跡 その男にも一度話したことがあつたから。

天から一冊の本が飛んでくる。

跡 この本、正確にはこの中の一部、江田つて男と俺との話のまあ象徴みたいな物か。コイツをとりあえずここに飾つて、ちょっと考えてみて。あんたのベースラインは大體どのくらいだ?人はみんな相対的だ。大金に囲まれて自殺する人間もいれば、「家

族と山羊の工サがあれば十分幸せ」ってのもいるし考え始めると……こないだ『世界遺産』でやってたの。世界、『世界遺産』、テレビのな。遺産に指定されてる遺跡のその場所に、昔住んでて今は町の都会の方で暮らしてるとっていうおじさんがテレビのクルーを連れて昔住んでたところに案内する。「私昔ンテタ住ンテタ」的な。偏見か。で遺跡だから何にもない砂漠に毛が生えたような場所だから「その頃の暮らしはどうでしたか」みたいなことを尋ねたらそのおじさんが言ったのが「家族と山羊のえさがあれば十分幸せ」ってね。なんだっけ。そういう線引きが個々人のものだから、でそうそう考え始めるとどっほにはまるから相対的な部分を切り捨てて考えるといい。というのにまた余計に喋っちゃったけど質問。あんたのベースラインは世界の中で何パーセント物質的に満たされてるの。それを考えながら、さ、行こう。

再びコーヒー。今後、記載がなくなるともこの男はよくコーヒーを飲んでいるので。トイレに行きたくなる。

江田の章では前章の村上祐介、そして次章にて全くの一人称で語られる話との中間的なポジション、つまり跡と江田の割合がとられる。前章で跡が村上祐介を語っている、そしてときに演ずる、という形をとっていたとするなら、ここではシーンとして完全に分かれる。ただそうすると江田のシーンで本来跡の知り得ない事項が出てくるわけだが、それに跡が通じているのは後述する「交換日記」の為

である。兎に角、ここはそうした色を出すためにいきなり江田側からスタート。しかも結論から。

跡、もとい江田昌弘が柱にもたれて座り込んでいる。右手には万年筆。先にはノート。左手にカップ、水筒。既に空。

江田
あの男の特徴といったらまあ普通というか普通でないというか、要するに「いい意味での奇抜さ」はないということ。なんつって当たり前のことを言ってるだけなんだけど、しかしこの仕事をやるような人間かというところとちよつと疑問。あの最初に言ったのはそういうこと。つまり……ああ、頭痛え……つまりあれだ、跡って男は自決の斡旋なんて仕事をやってる割にはあんまりに普通に見えたのだけどそれなら何故やっているのかそこに普通でなさがあるに違いない……ああ、長々と言っただけ当たり前だよ。誰だってそうだよな。結局言いたかったのはアレ、俺の人は間違っただけでなかった。

楽しみに苦悶する。

江田
今このとき、薬が身体を巡ってるのを感じる。久々に煙草吸ったときみたいなアレ。動脈……静脈……そんな感じ。この段になって俺は跡という男に感謝してるわ。やっつ。この先もし彼が世間様から責められるようなことがあれば俺としては庇ってやりたいところだが、いやいやいやあの男の望む所じゃないでしょう。なんか毛

つと書いてえ。なんでか人って文章に残したがるわね。輝いてるヤツも輝いてないヤツもそこら中で書いてる、日記だ、好きな映画だ、感想文だ…無駄無駄。無駄に生産されて日本語を汚すだけ。ってあの男は言うだろうな。俺が今感謝の気持ちなんて書いてたらそれこそキレルんじゃないか？…輝いてないヤツはいったい何書いてんだろうな。輝いてない自分の今日の出来事を書いてんのかな。輝いてないヤツが輝いてない自分の日常を文に残した後から読み返して自分が輝いてないと気づいて、そういう奴らってなんで生きていられるんだろう、ああ……

跡(江田)の身体が激しく痙攣します。後述する理由から江田が使用したのはストリキニーネ、安楽な自殺には向かないとされる薬物である。

暗転。

跡 その才能が俺にはなかったんだろうな。

かみ殺した悶絶とともに鈴の音。

明転。跡が江田の傍らに立っている。跡、ノートを一枚の紙切れと交換する。

跡 最期の一文、(ノートを見て)「もう終わるのかと思うと残念だ」一瞬だけ、後悔してることかと思っただけはつまり楽しかった時間が完了してしまっただけで意味、だろ

うな多分、あいつなら。

跡、江田の額を拭う。

跡 ポイントの一、真ん中をすっ飛ばして答えだけを出すなら、この男を殺したのはテレビだ。この男は報道される。しかもある程度の悲劇を伴った被害者として。だってそうなるようにしたから。自らを殺すという行為が自決と呼ばれる為の絶対条件がつまり劇的に報道されることだ。言い換えれば世間様に通ずるしかも漠然として倒し方の分からない

合成音 敵

跡 んっ？

合成音 敵

音は江田から発せられている様子。跡、江田を見下ろして

跡 まだ探してるのか……敵を設定する。村上祐介の場合それは『大人』という形で見える「どうしようもない人間の足りなさ」だった。あとはテレビが背中を押してくれる。

跡、話しながらノートを引き破り始める。

跡 少年は何故？何故少年は死ななければならなかった？政府は何をやってる？等々。敵

を倒す積もりは毛頭無いにしても無念を、晴らす、代わりに、闘う、死を、無駄に
 してはいけない、そういうテーを見せてくれるからここに村上祐介の「死に甲斐」
 が生まれる。村上祐介には最初からあったんだよ、敵が。ところが江田昌弘には
 なかった。

側にあつたバケツを足で引き寄せ、破ったノートに火をつけて放り込む。

跡
 こいつは世間からは自決と見られるだろうが、紛う事なき自殺志願者だった。それ…
 それなのに…

跡、徐に怒り出す。

跡
 いいか？最初に言っておくがこの一件については江田昌弘については、俺は…あのな
 ……あんたどう思うよ。江田はあんたの目から見ても何だったよ。あいつは『生き甲斐』
 が無いから『死に甲斐』だけの為に死んだ唯の自殺者だ、屑の逃亡者だ。それなの
 に俺は江田の一件で、最も効果的に仕事が出来たんだよ。悪い、なんでもない。二
 人目。江田昌弘。こいつ…俺はね、確かによく話が飛ぶって言われるけどあいつほ
 どじゃなかったな。俺は単にジャンプするだけ文字通り話が飛ぶだけだけどあの男
 は支離滅裂。あのね、俺は俺と話しているときに俺より喋る人間に久々にあつたよ。

暗転。

LifeR Stg:0 『壺毒の病』

2006/11/7.8

@キッド・アイラック・アート・ホール

作 宮本荊

全 83 ページ 中 43 ページ 迄を掲載